
5色に輝く真実の石

確認のためいっておきますが僕どらえもんじゃないです。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

5色に輝く真実の石

【Nコード】

N0361T

【作者名】

確認のためいっておきますが僕どらえもんじゃないです。

【あらすじ】

本当の気持ちに目を無意識にそむけ、意識的にはどうあがいても本当の気持ちに気付けない少女の、成長のお話です。

私は8歳ころ、父と河原の散歩中に、不思議な岩を拾った記憶がある。

5色に輝く、てのひらサイズの岩である。

私は今その石を握っている。まるで加工を加えたように滑らかその岩肌からは、もとは巨大な岩だったが、河を流される間に削られていったことが容易に想像でき、時の流れを感じることができた。

ちなみにこの石、光の角度によって色が5色に変化する、というありがちなものではない、石は触れている人の感情によって、色が変化するのだ。

喜Ⅱ橙色 怒Ⅱ朱色 哀Ⅱ藍色 楽Ⅱ黄色 その他Ⅱ白

と、いうように。

この石を見ると父との思いでが蘇る。

私は父が大好きだった。毎朝私が始めてくるころには仕事に出かけ、眠ったあとに帰ってくる。しかし、毎晩仕事から帰ったあとに、部屋に入り、寝顔を確かめていることを私は知っていた。去年、高校に進学したあとも反抗期などを迎えることなく、父を尊敬しているし、愛していた。不安で眠れない夜には、父の帰宅を待ち、ドライブに連れていってもらう。どんなに疲れている日でも、父は笑顔であたたかく了承してくれた。目的地のない心地よい車の振動に揺られ、父と会話をしながら私は眠りにつく。そして、朝を起きると私はベッドにいる。父が運んでくれているのだ。

そんな父が、先週交通事故で他界した。あまりに突然の出来事。なぜか私は悲しくなかった。悲しみを感じない私が、信じられなかった。あんなに大好きだった父。その父の死に対し、私は一粒も涙を

流すことが出来ない。許せなかった。自分が憎い、そうとさえ感じた。毎日泣き崩れ、父の遺影にすがりつく母。実感がないわけではない。はっきりと、わかっているのだ、父が死んだ、ということ。私には感情がない、欠落した人間だ、と思った。何も感じず、大切な人の死を偲べない。

赤子のように丸くなり、ベッドの上でうずくまる。そんな時、ふと、あの岩のことを思い出した。たしか、なぜか色が変わる岩を、父と一緒に見つけたんだ。記憶の糸を手繰り寄せ、しまっていたその岩を探し当てた。

「見つけた時は岩だと思ってたんだけどなあ。この大きさじゃ、石ね。」

小さな小さなその石を手取る。真っ白だったその石は、藍色に染まった。

私は泣き崩れた。

(後書き)

時系列は 中盤 最後 最初 の順番です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0361t/>

5色に輝く真実の石

2011年10月8日08時08分発行